

MASHIKO MUSEUM OF CERAMIC ART

益子陶芸美術館

陶芸メッセ・益子

2023年度
〔催し物案内〕

回覧

■笹島喜平館

益子出身の木版画家 笹島喜平の作品を展示しています。笹島は棟方志功に師事し、やがて版画の表面に凸凹が残る“拓刷り”という技法を生み出しました。



■サロン(ミュージアムショップ)

お好きな益子焼のコーヒーカップを選び、挽きたてのコーヒーをお召し上がりください。
*入館無料



■旧濱田庄司邸

濱田庄司が実際に住んでいた茅葺の邸宅を移築し公開しています。町文化財。

*さつき茶会(益子町茶華道協会)

・5月14日(日)10:00~15:00

茶券700円



■益子国際工芸交流館

〔Mashiko Arts & Crafts Residence〕
世界各国の代表作家や若手作家の交流事業を開催し、作品創作や人材育成など学びと交流に繋がる施設。



■登り窯

濱田庄司が生前に愛用していた登り窯を移築復元しました。



■開館時間

9:30~17:00 (2月から10月) ※入館は16:30まで
9:30~16:00 (11月から1月) ※入館は15:30まで

■休館日

月曜日(祝休日の場合は翌日)
但し、5月1日(月)、11月6日(月)は開館
5月9日(火)、11月7日(火)は休館
年末年始休館 12月25日(月)~2024年1月1日(月)
*他に展示替えによる臨時休館があります

■入館料

益子陶芸美術館、笹島喜平館 共通
[一般] 600円(550円)
[小中学生] 300円(250円) ※()内は20名以上の団体料金
[65歳以上] 300円 ※個人団体共に
(受付にて年齢確認出来るものをご提示下さい)
入館無料: サロン(ミュージアムショップ)、ミニギャラリー、旧濱田庄司邸、登り窯
入館無料日: 6月15日(木) 栃木県民の日

■交通案内

【バス】東武宇都宮駅、JR宇都宮駅(西口14番バス乗り場)から関東自動車バス 益子行、または秋葉原駅より茨城交通高速バス「関東やきものライナー」 笠間・益子行、陶芸メッセ入口下車徒歩2分
【JR】小山駅から水戸線下館駅下車、下館駅から真岡鐵道益子駅下車 徒歩25分
【自動車】常磐道友部JCT経由、北関東道桜川筑西ICから20分
東北道栃木都賀JCT経由、北関東道真岡ICから25分



益子陶芸美術館 / 陶芸メッセ・益子

〒321-4217 栃木県芳賀郡益子町益子3021
TEL.0285-72-7555 FAX.0285-72-7600
<http://www.mashiko-museum.jp/>

■企画展

2023

4月

展示替えのため休館 4月3日(月)～4月15日(土)

4月16日(日)～7月17日(月・祝)

開館30周年記念

1958～ 益子個人陶芸の夜明け

Since 1958: The Beginning of Mashiko Studio Pottery

昭和30年代に入ると、益子には陶芸を志す若者が数多く訪れるようになります。本展では1958年から70年頃益子に入った、加守田章二を始めとする陶芸家たちを紹介します。濱田庄司が築いてきたそれまでの益子とは異なる、独自の作風を追求し、益子の一時代をなした陶芸家たちの作品をお楽しみください。



加守田章二《曲線彫文壺》1970年
益子陶芸美術館蔵

5月

2階展示室 スポットライト:—窯変を求めて— 峯岸勢晃

Minegishi Seiko: In search of *Yohen*

栃木県では益子を中心に焼物が盛んに作られています。那須塩原市には青瓷の制作に励んだ峯岸勢晃がいました。峯岸の青瓷は翠瓷、米色青瓷、粉青瓷と様々ですが、近年は窯変米色瓷に挑戦していました。本展示では峯岸の青瓷19点によってその魅力を紹介しします。



峯岸勢晃《水華翠瓷蓮香炉》2012年頃
益子陶芸美術館蔵

6月

展示替えのため休館 7月18日(火)～7月29日(土)

7月30日(日)～10月9日(月・祝)

開館30周年記念

陶芸家 和田的展

Ceramic Artist: Wada Akira

千葉県出身で現在も千葉県佐倉市で作陶する和田的(1978～)の初期作品から最新作まで、彫りと削りを極めた作品の数々を紹介します。また、陶芸以外にもFRPやステンレスを用いた造形作品も展示しします。



和田的《白器「ダイ/台」》2017年

7月

2階展示室 スポットライト:追想 瀧田項一

Takita Koichi

昨年2月に94年の生涯をとじた瀧田項一の仕事を約20点の作品と資料によって追想しします。手の切れるような白磁ではなく、温もりを感じられるような白磁を標榜し続けた瀧田作品を紹介します。



瀧田項一《染付唐草文大壺》2009年
益子陶芸美術館蔵

8月

展示替えのため休館 10月10日(火)～10月21日(土)

10月22日(日)～2024年1月8日(月・祝)

開館30周年記念

益子日帰り 旅する染色家 芹沢銈介

A Day at Mashiko: Serizawa Keisuke, Traveling Dye Artist

民藝運動の染色家として知られる芹沢銈介(1895～1984)は旅を好み、生涯にわたって日本各地や世界各地をめぐる旅をしました。各地を旅することで目にした手仕事の現場の光景や、そこで作られた民芸品などが数多く作品に表されています。本展では「旅」をテーマに、芹沢が旅先で出会った景色や文物に取材した作品と、海外へ旅した作品を紹介します。



京都十二段家

9月

2階展示室 スポットライト:生誕120年記念 棟方志功と京都十二段家

The 120th Anniversary of his Birth: Munakata Shiko and KYOTO Junidan-ya

今年、棟方志功は生誕120年を迎えます。本展示は棟方志功と京都祇園花見小路で十二段家を営んだ西垣光温に焦点を当てて、普段知られることのない棟方、西垣家の交流を紹介しします。

10月22日(日)～ 11月26日(日)

<笹島喜平館>日本拓版画会展2023

Japan Takuhanga Print Society Exhibition 2023

日本拓版画会のメンバーによる拓刷木版画の展覧会。

展示替えのため休館 1月9日(火)～1月19日(金)

10月

11月

12月

2024

1月

1月20日(土)～4月7日(日)

開館30周年記念

ジュリアン・ステアと加守田章二 —“うつわ”の必然性—

Julian Stair and Kamoda Shoji: The Inevitability of Vessels

現代イギリスを代表する陶芸家のジュリアン・ステアと日本近代陶芸の寵児として知られる加守田章二は共に“うつわ”を作っています。本展覧会ではジュリアン・ステアと加守田章二の作る“うつわ”の必然性について、二人の作品を通して考えます。



ジュリアン・ステア《台座に置かれた5つのティーポットとキャディ》2013年
益子陶芸美術館蔵

2月

2階展示室 スポットライト:益子 茶碗考

A Consideration of Mashiko Tea Bowls

本来江戸時代末に始まった益子焼は、茶の湯の茶碗とは無縁でした。しかし、近代になって抹茶碗を作る作家が現れ、現在では多くの陶芸家が盛んに茶碗に挑んでいます。この展示では、昭和に入り益子で茶碗を作り始めた陶芸家たちの茶碗を紹介しします。



濱田庄司《鉄絵茶盃》1973年
益子陶芸美術館蔵

3月

※展覧会およびスケジュールは変更になる場合があります。